

「75歳以上医療費窓口2割化アンケート」調査の結果について

2021年3月30日

石川県民主医療機関連合会

昨年12月14日、菅首相が議長の「全世代型社会保障検討会議」が方針を出し、75歳以上の高齢者の医療費窓口負担について2割負担を導入することを盛り込んだ。翌15日には、閣議決定がなされ、通常国会に法案が提出された。法案では、2割負担の対象を、単身世帯で年収200万円以上、夫婦とも75歳以上の世帯で年収320万円以上とし、約370万人、実に約30%の人が該当するとしている。開始は2022年10月から23年3月までの間となっている。

私たち、石川県民主医療機関連合会（以降、石川民医連とする）は、75歳以上の高齢者がすでに重たい医療費負担を抱えながら厳しい生活を強いられているコロナ禍において、さらに負担を増やす法案審議に対しては断固反対の立場である。国会への「75歳以上医療費窓口負担2割化に反対する請願署名」を現在までに4,500筆以上集め順次国会に届けている。

法案内容や審議等の周知が不十分であるため、この法案通り医療費負担が2割化された場合の影響及び現在置かれている当事者やその家族等の心境を伺い、県民に広く可視化する必要があると考え、石川民医連に加盟する病院・医科診療所・薬局・介護事業所及び石川県健康友の会連合会で「75歳以上医療費窓口2割化アンケート」に取り組んだ。その結果をまとめたので報告する。

1. アンケートの概要

調査期間：2021年1月～2月28日

調査対象：石川民医連加盟事業所を利用する患者・利用者及びその家族、石川県健康友の会連合会会員等

75歳以上の者を基本とし、法施行時に対象年齢となる等75歳未満の者も対象とした

調査方法：無記名とし、病院・診療所窓口でお渡し、その場で記入または後日返送いただいたもの

回収数：1591通（2月末時点）

項目と結果は以下の通り <別紙グラフ>参照

75歳以上 899人（56.5%）

75歳未満 669人（42.1%）

空白 23人（1.4%）

計 1591人

設問1 いまの医療費の支払いが負担と感じたことはありますか？

75歳以上

はい	413	46%
いいえ	399	44%
空白	87	10%
	899	100%

75歳未満

はい	341	51%
いいえ	279	42%
空白	49	7%
	669	100%

全体

はい	760	47.8%
いいえ	683	42.9%
空白	148	9.3%
	1,591	100%

※75歳以上で46%の方、平均で47.8%の方が現在でも支払いに「負担を感じている」と回答した。いずれも「負担と感じていない」とする回答を上回った。

設問2 医療費が2割負担（2倍）になった場合、病院、診療所への通院はどのようにしますか？（複数回答）

75歳以上

⑥その他	53	6%	39%
④薬の飲み方を自分で調整する	54	6%	
③通院回数を減らす	138	15%	
②受診科の数を減らす	110	12%	
①いままで通り受診する	545	61%	
	900	100%	

75歳未満

⑥その他	40	7%	40%
④薬の飲み方を自分で調整する	27	4%	
③通院回数を減らす	96	16%	
②受診科の数を減らす	81	13%	
①いままで通り受診する	361	60%	
	605	100%	

※今まで通りとする方が6割と最も多いが、4割の方が今まで通りの医療に制限がかかると感じている。その他に記載のあったコメントは以下の通り。

- ・痛みはできるかぎりガマンします
- ・自分の受診は減らすが、家族は受診させる
- ・行かない、利用しない
- ・先生と相談し、通院回数、薬の飲み方を調整
- ・めったに受診しないようにする

設問3 政府案では単身世帯で200万円以上、夫婦世帯で320万円以上の収入の方が2割負担の対象となります。あなたは該当しますか？

75歳以上

全体

該当する	262	29%
該当しない	471	52%
空白	166	18%
	899	100%

はい	485	30.5%
いいえ	801	50.3%
空白	305	19.2%
	1,591	100%

※75歳以上の方で29%、全体でも30%の方が2割化対象となると回答した。ほぼ政府推計通りとなる。

石川県内においては、令和2年7月時点の後期高齢者被保険者の所得状況等実態調査に基づき約3.2万人が対象となる見込みである。

設問4 あなたの現在の収入形態はどれにてはまりますか？（対象者1369人からの回答）

75歳以上

75歳未満

年金のみ	711	88%
年金+仕事	65	8%
仕事のみ	2	0%
その他	17	2%
空白	12	1%
	807	100%

年金のみ	270	48%
年金+仕事	147	26%
仕事のみ	113	20%
その他	17	3%
空白	15	3%
	562	100%

※75歳以上の方は88%が年金のみ。1割弱の方は仕事で収入を得ている状況であった。コロナ禍で仕事が減り困っているとのコメント記載もあった。

設問5 医療費自己負担で困ること、コロナ禍の中での生活で大変なことなど何かご意見ありましたらご記入く

ださい 以下抜粋する

- 主人は要介護になって、妻が介護していたら夫婦で病院にかかる様になった。通院費にタクシー代も必要。2人の年金合わせての2割は到底やっていけない。高齢者はやっと生活している。世間の状況をよく見て欲しい。税金の無駄遣いが多すぎる。通院しても要介護支援を受けなくて自身で生活できるように考えて欲しい。
- 年金だけでぎりぎりの生活をしているので、医療費の出費は大きい。若い時より通院の回数多くなる。
- 年金が少なく毎日の生活が大変です。私は乳がんをしているので、又いつ右がなるかと心配しています。
- (糖尿病) 無職となりました。年金が少ないのでどうしたらいいのか分かりません。
- 有料老人ホームに入所している為、日頃(2020/8まで)は娘が洗濯等お部屋の掃除をしていましたが、部屋に入れなくなった事により、介護さんをお願いをするようになります。すると洗濯でも1回(少なくとも)800円など、お金がかかります。その為病気により栄養の管理の為、補食を出すことになり、益々負担が大きくなっている矢先に医療費2割負担が止めてください。
- 医療費自己負担が2倍になると、年金も多くもらっていない為、コロナ禍の中、仕事を探すことも出来ないのが困る。
- 現在、私は糖尿、高血圧、心臓病と苦しんでいます。医療費も馬鹿になりません。これ以上の負担はかんべんして下さい。
- 負担額が増えると治療すれば治る可能性のある病気でも治療を受けない選択肢があるので、生きることを諦めてしまう人が出てくる。
- 受診やデイサービスなどでの感染が怖く、回数を減らしています
- 自己負担が増えると受診を控えます。そうするとやはり健康に格差が生まれると思います。
- 悲しい腹立たしい悔しい。基礎疾患のある人は感染リスクが大きいとか病院入院ができないとか毎日テレビや新聞で言われるたびに生きることが悪いかのように言われ生きていることが悪いように言うのはだめ。
- 年金額が夫婦合わせても毎月ギリギリの生活をしております。これが医療費が2割負担になったらますます生活するのが大変になります。
- 近い将来生活困窮が間違いなく訪れるのだがその時に医療費より生活費を優先することになると思う。
- 経済的な負担と同様に精神的な負担の重圧が増えることになると思います。
- 持病が数個あり医療費が現在の数倍かかる大変つらいです。
- 今までも経済的に大変なのに、コロナ禍で家族の収入も少なくなって更にひっ迫して、2割負担になると生活が立ち行かなくなります。
- 医療費自己負担が増えると食費を削るしかない。今現在でもマイナスなのにこの先どう暮らしていけば良いのか分からない。
- これから病気が増えていくのに2割負担は困ります。一人暮らしになってほとんど用事以外は他へ出かけなくなった。不安感強く、夜よく目覚め眠れなくて困る。
- 高齢になれば医療費がかかってくるのは当たり前。心配なくかけられる医療費無料化にすべきですね。皆さんコロナで、ウツ気味、会うと話をしたくてたまらない様子です。人は話をしたり、笑ったりする場がないことは大変なことです。(高齢になるほど)

2. アンケート結果の特徴

●医療費が2倍?! 今まで受けられた医療が受けられなくなる強い不安がある!

高齢者の多くは僅かな年金収入で生活している。今でさえ医療費が負担であるとの声が多い中で、さらに窓口での支払いが2倍になることの影響は大きい。タクシー代などの交通費に加え、コロナ禍で衛生材料費も必要となり、家計に占める医療介護にかかる費用が大きな負担となっている。今でも薬を自身で調整し、受診を控える受診抑制が起きている現状に拍車をかける事態になることは容易に想像できる。コメント欄にも当事者の深刻な実態が多く出されている。

●コロナ禍にさらに追い打ちをかける法案! 精神的なストレスが強まっている

コロナ禍で今までにない費用負担も発生し、不安な生活を強いられている中で、さらに不安を煽る議論自体がストレスを高めている。中には「子どもや孫のため」、「現役世代のため仕方がない」という意見もみられるが、世代間の対立を煽る政府発表や報道による板挟みに合う高齢者の心情を察するに、あまりにも酷な議論が展開されていると考える。

3. 私たちが訴えたいこと

■政治の役割は国民の不安を取り除き救済すること

今、コロナ禍で多くの国民が強い不安を持ちながら暮らしている。特に持病のある高齢者は、これまで通りの医療が受けられなくなることへの不安が大きい。また高齢者を支える家族にも経済的な負担がかかっている。「全世代対応型社会保障改革法案」は、国庫財源の縮小を目的に、あらゆる世代に負担を負わせるものであり、断じて容認できない。今政治に必要なことは、コロナ禍の国民の不安を取り除き救済することである。

■重篤化・手遅れを招き、高齢者のいのちにかかわる重大問題である

「75歳以上医療費窓口2割化」は、わずかな年金収入で切り詰めた生活を送る高齢者の実態を無視した、一方的な医療給付費の削減政策であり、仮にこの法案が実施されれば、さらなる受診抑制による重篤化、手遅れによる死亡を招き、高齢者の命にかかわる重大な問題である。

■現役世代の負担軽減は国庫割合を増やすこと

高齢者は、年齢を重ねれば病気にかかりやすくなり、医療をより多く必要とするのは自明の理である。「現役世代の負担軽減」を理由に、「高齢者に社会保障給付が偏っている」と国が率先して世代間対立を煽る議論を展開し、給付削減を推進することこそ問題である。実際には現役世代の負担軽減は月額30円程度にしかならないとの試算もある。「世代間格差の解消」を謳うのであれば、コロナ禍で喘ぐ国民の負担軽減のために、財政出動で健康保険財政への国費割合を増やすことや、現状3割となっている現役世代の医療費窓口自己負担を軽減させることが優先事項である。

■少なくともコロナ禍の今、法案の審議は見送るべき

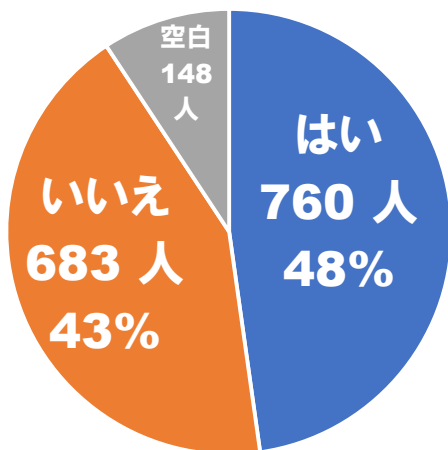
本法案は「傷病手当金の支給期間通算化」や「子ども・子育て支援の拡充」などその他の見直しとの一括法案であるが、「後期高齢者医療における窓口負担割合の見直し」の審議については、その他の見直しとは切り離し、少なくとも、コロナ禍の今、さらに負担を増やす法案の審議は見送るべきである。

以上

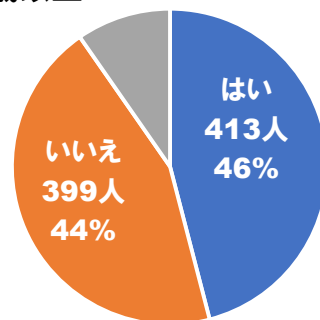
<別紙グラフ> ※年齢空白分があるため年齢別と全体の合計は一致しません

設問1 現在の医療費の支払いが負担と感じたことはありますか？

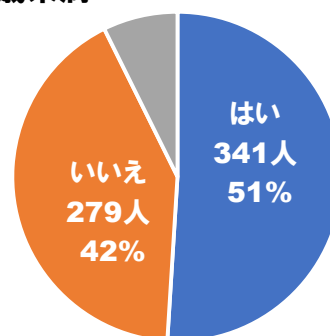
全体



75歳以上

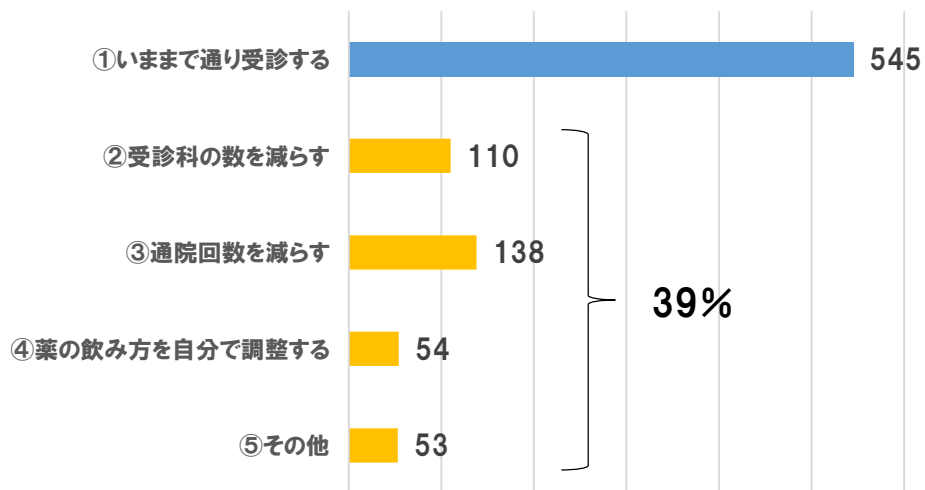


75歳未満

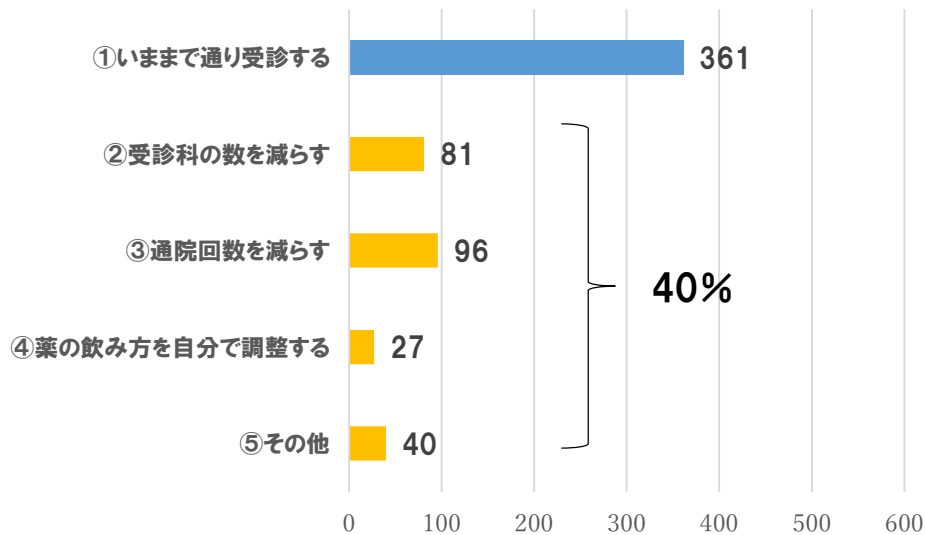


設問2 医療費が2割負担（2倍）になった場合、病院、診療所への通院はどのようにしますか？

75歳以上

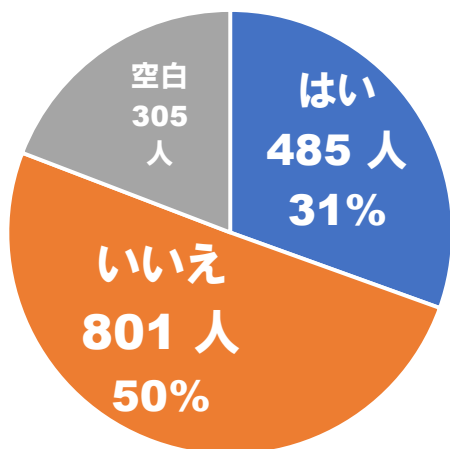


75歳未満

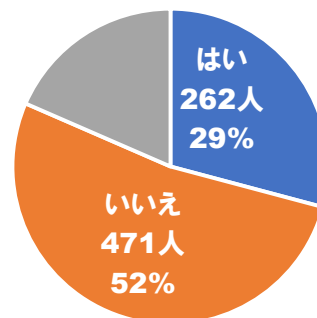


問3 政府案では単身世帯で200万円以上、夫婦世帯で320万円以上の収入の方が2割負担の対象となります。あなたは該当しますか？

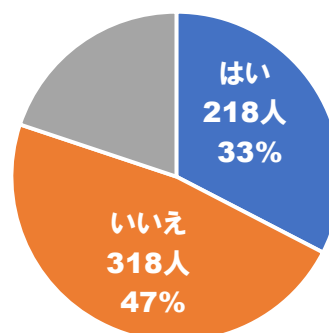
全体



75歳以上



75歳未満



問4 あなたの現在の収入形態はどれにてはまりますか？

